

# ホクレン営農支援情報

(2019年3月号)

## ●子牛の寒さ対策で離乳時 DG がアップ！ 《訓子府実証農場 畜産技術課》

訓子府実証農場では、子牛の飼養管理方法改善をテーマに様々な対策を行ってきました。特に昨年秋からは哺乳舎の寒さ対策に重点をおいて改善を図りました。

一つ目はカーフハッチへのヒーターを後付けです。マイナスの外気温にも耐えられるようにしました。二つ目は哺乳舎屋根のウレタン吹付けです。温かい空気が逃げないように改善しました。これらの結果、年間平均の離乳時 DG (1日当たりの増体量) が 0.1 kg アップしました。今後も健康な子牛管理に励んでいきます。



ヒーターを取付けたハッチ



哺乳舎屋根のウレタン吹付け (施工前→施工後)

表. 離乳時DG

	離乳頭数	平均DG (kg/日)
2017年	85	0.58
2018年	78	0.68

## ●冬野菜の試験販売を行いました 《訓子府実証農場 農産技術課》

訓子府実証農場では、厳寒地における冬場の野菜供給や労働力確保を目的に冬野菜の栽培試験を実施しています。平成 30 年 11 月 27 日には、収穫した小松菜とリーフレタスの試験販売を行いました。消費者からは「冬場でも野菜を食べたい」、「地場産の野菜があれば購入したい」との声が聞かれ、地場産冬野菜の需要の高さがうかがえました。

ご興味のある方は訓子府実証農場 農産技術課までご連絡ください。(Tel.0157-47-2130)



試験販売した小松菜（左）とリーフレタス（右）

## ●ホクレン RTK システムを活用したトラクター走行実演会

《帯広支所 営農支援室》

「JA さつない ICT 技術研究会」主催の実演会が 2 月 13 日に開催され、生産者や JA、ホクレン、関係メーカーなどから約 100 名が参加しました。

実演会では、実証試験を終え 4 月より本格稼働を予定している「ホクレン RTK システム」の新



規基地局である幕別町基地局から配信した RTK 補正信号を活用し、自動操舵補助装置のついたトラクターの走行を実施。GPS ガイダンスシステム・自動操舵補助装置の導入を検討



している多くの生産者に体験していただくことができました。また、RTK 補正信号を活用したトラクターの自動旋回にもチャレンジし、無事に成功。3 台のトラクターが同時に走行し、同じ方向に自動旋回する姿は圧巻でした。



「ホクレン RTK システム」 RTK 補正信号を活用したトラクターの実演走行の様子

## ● 日胆地区ゆめぴりか品評会を開催 《苫小牧支所 営農支援室》

日胆地区の生産者・関係者による「日胆地区「ゆめぴりか」生産販売プロジェクト」は、平成 30 年 12 月 26 日、「平成 30 年産ゆめぴりか品評会」を開催し、意見交換や試食会を行いました。

試食会では、管内産「ゆめぴりか」や府県産米 5 点を、銘柄を伏せて試食しました。結果は僅差で府県産新興銘柄が 1 位となり、次いで「ゆめぴりか」の評価が高いという結果に。全国的に食味の高いブランド米が次々と誕生していることを実感した結果となりました。



## ●赤色防虫ネットの効果を確認 《札幌支所 営農支援室》

野菜や花のハウス栽培における害虫としてアザミウマ類が問題となっています。防除には薬剤のほか防虫ネットが用いられます。アザミウマ類に対して忌避効果があり従来の白色ネットよりも効果が高いとされる赤色の防虫ネットについて、カーネーション栽培ハウスにて、現地導入に向けた効果確認試験を行いました。



赤色ネット（商品名：サンサンネット e-レッド、0.8mm 目合い）、慣行の白色ネット（目合い：0.8mm）、およびネットを張らないハウスに侵入したアザミウマ類の数を青色粘着板で捕殺数を確認したところ、白色よりも赤色ネットのハウスの方が少なく、抑制効果が高いことを確認できました（図1）。これにより、薬剤防除の回数も削減できると考えられます。

また、防虫ネットを用いた場合にハウス内の気温が高まることが懸念されましたが、ネット設置ハウスは無設置ハウスと比べやや高温になるものの（図2）、カーネーションの生育に影響を与えるほどではなく、遮光シート・遮光ネットの利用で十分に対応できると考えられました。

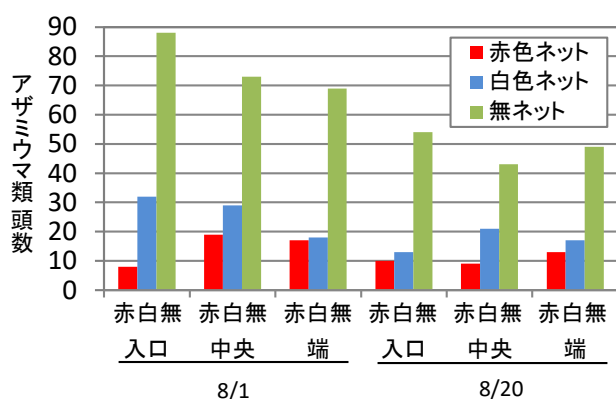


図1. ハウス内に侵入したアザミウマ類の頭数

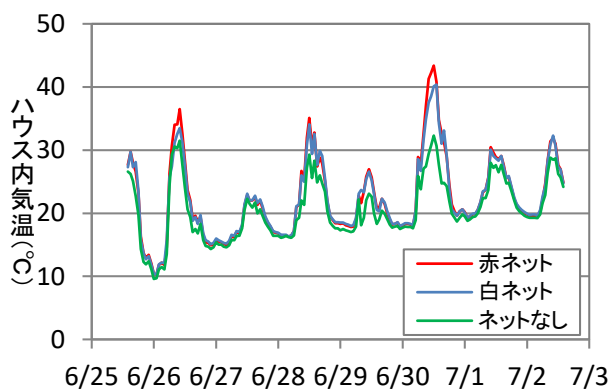
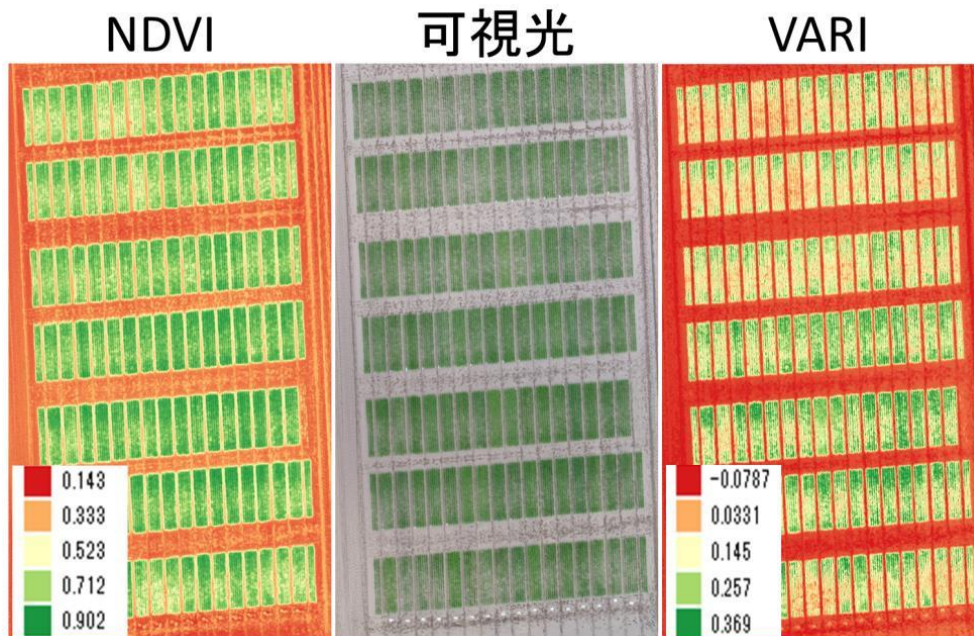


図2. ハウス内の気温（6/25~7/3、1時間毎）

## ●ドローンを活用したリモートセンシング 《長沼研究農場 営農技術課》

ドローン等で上空から圃場を撮影し、作物の活性度を示す植生指数（NDVI、VARI 等）を測定するリモートセンシングは、客観的に作物の状態を評価できると言われています（リモートセンシングの詳細はアグリレポート16号に参照願います）。

営農技術課では、ドローンでの撮影によって得られた植生指数と作物の生育量や収量を比較。植生指数がどのように利用可能なのか検討しています。今後、撮影する対象作物、天気や時刻などの撮影環境を変えて調査を行い、現場での実用性を検証していく予定です。



春まき小麦試験圃場(ドローンで高度50mから撮影)  
植生指数の値が高いほど作物の活性度が高いことを示す  
※プロットごとに様々な品種を作付している(1.2m×4m/プロット)

## ● 玉ねぎの播種作業を実施 《長沼研究農場 園芸作物開発課》

園芸作物開発課では玉ねぎの品種開発を行っています。2月14日に極早生・早生品種の播種および床ふせ作業を行いました。育苗した苗は4月下旬に定植を行い、品種比較試験や各種試験を行います。7月中下旬ごろより倒伏期を迎え、8月以降に収穫を行う予定です。



播種および床ふせ後の玉ねぎの育苗ハウス

当課では、視察の受け入れも行っていきます。ご興味のある方は、園芸作物開発課まで。

(Tel. 0123-88-1990)



## ●今年度の酪農後継者向けの農業経営塾が修了 《営農支援推進課》

北海道の酪農関係組織で構成する北海道酪農人材育成協議会（事務局：ホクレン営農支援推進課）が研修カリキュラムを企画し北海道立農業大学校が実施する、北海道農業経営塾「酪農経営管理



修了式を終えた第1期生

者コース」は今年度の全日程を終えました。今年度が第1回目となるこの研修は、酪農法人後継者など14人が参加し、1クール3日間×3回の計9日間で実施しました。

約半年に渡る研修では、経営分析や乳質管理、人材育成など幅広い分野について学びました。最終日には、受講生一人ひとりが今後に向けての決意を表明。「ここで学んだことを生かしてしっかりと牧場経営をし、従業員の人生も背負っていきたい」「同じような立場の仲間と出会えたことで、さらに前に進むことができる」といった声が聞かれました。

2019年度も同様の研修を実施予定です。開催日程は表のとおりです。研修に興味がある方は北海道立農業大学校へお問合せください。

表. 2019年度の北海道農業経営塾「酪農経営管理者コース」開催日程（予定）

	月日	場所
第1クール	2019年7月16日～18日	農業大学校（本別）
第2クール	2019年11月11日～13日	農業大学校（本別）
第3クール	2020年1月27日～29日	札幌

## ●農福連携実践セミナーのご案内 《営農支援推進課》

障がい者や農業初心者が活躍しやすい「農業・農村の新しい働き方」について検討し、農業や福祉の関係者間で共通認識を醸成するためのセミナーが下記のとおりで開催されま

す(主催:北海道、後援:ホクレン、北海道中央会)。参加は無料です。主催する道では、「雇用労働力確保の観点から農福連携に関心が高まるなか、講演者の京丸園(株)では、誰もが働きやすい「ユニバーサル農業」の推進により、農場の成長につなげておられます。多くの農業関係者に知っていただきたい内容です。」と話しています。ぜひご参加ください。

【セミナー】 農福連携実践セミナー

【日時】 平成31年3月13日(水) 13:30~16:30

【会場】 北海道自治労会館4Fホール(札幌市中央区北6条西7丁目)

- 【内容】
1. 労働力確保と農福連携について(北海道農政部農業経営課)
  2. 農福連携をめぐる状況について(北海道社会福祉協議会)
  3. 講演「農業における障がい者就労の取組と地域連携~ユニバーサル農業の可能性~」(京丸園株式会社)
  4. 働きやすい環境づくりによる人材確保の取組について(ホクレン)
  5. 「一般社団法人れんけい」の農福連携推進の取組について(れんけい)
  6. 深川市における農福連携の取組事例(JAきたそらち)

【申込方法】 下記専用サイトからお申込みください。

(定員:200名 締切3月6日(水))

<https://www.harp.lg.jp/DjzwAzlC>



発行: ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. [einousiensuisin@hokuren.jp](mailto:einousiensuisin@hokuren.jp)